



1 体分の部品たち

ハッキリ言っておこう。

こんな「モノ」を僕とオナジモノだと感じないで欲しいんだ。

だって、これらは「人形」とさえ呼べない代物じゃないか。

不気味で、無様で

このまま何も知らない人間に手渡されたら

きっと、どうしようもなくなって

ゴミのように捨てられても仕方が無いんじゃないか？

そんな寂しい末路を辿るような僕では有り得ないんだけど

僕は、僕としての記憶に

この姿が無いんだよ……………。



裸体

どうしてなのかな？

僕は憶えていない……いや、知らなくても当然なんだ。
まだ目もなかった僕が知りえるわけではないんだから。

それでも僕が知っていることもある。

コイツは僕じゃないのかもしれないけれど

いや、僕だということは認めてもいいんだけど！

とにかく、コイツは球体関節人形という奴だろう？

身体の分割部分が多いから身体を捻る事もできる。

柔軟な動きを表現できる。

だから、これは……たぶん僕なんだ。



見えた世界

初めて見た世界はボンヤリとかすんでいた。
何も塗装されずに「人形」のふりをしてみた。
僕は、この時から「僕」だったんだろうけれど
無個性で、無機質な僕を愛してくれる人は
まだ居なかったんだ.....。



初めての感情

僕を「僕」だと認識した日

僕の隣には古い、古いヒトガタが居た。

僕と似た身長で、僕と似たところがあるくせに

コイツは既に古参という名を冠していた。

名も無い、塗装もされていない僕の横で

何度も塗装されなおしているのだと笑うコイツが

妙に癢に障った。

「火難」と名乗ったコイツを好きになれそうに無かった。

何度も、何度も、手を加えられて

修理されながら存在し続ける「火難」は

きっと愛されているのだろうから……………。

無機質な僕を愛してくれる保証の無い日

僕の覚えた感情は、きっと、たぶん

「嫉妬」



僕

「僕」が「僕」として知っている姿なんだ。
僕のガラスの瞳は「紫」
君が動くと僕の視線は追いかけてあげる。
ねえ……………
もう僕は無機質な「モノ」には見えないでしょう？
僕を好きになってくれるのかな……？
好きになってくれるまで
僕は君の姿を追い続けるよ。



好き

僕は僕が好きなんだ。
まだまだ知らない事が多いから
僕は、僕の世界だけで愛を知る。

誰よりも傍に居て
ずっと感じているのは僕自身なのだから
誰からも愛されなくても大丈夫.....



そう、きっと、たぶんね。
愛されなくても
僕が此処に居る事実と
僕が生み出された理由はあるのだから
そう
だから寂しくなんか無い.....。

ねえ？



君は誰が好き？

「火雛」なのかな？

そりゃあ、僕はアイツが好きじゃないと言ったけれど
でも！

でも、君が望むなら仲良くしてもいいよ？

べ……別にアイツが気になるわけじゃあないさ。

君のことは

僕、ずっと見ているんだから……………

だからさ。

火難ばかりに話しかけるなよ。

僕が見ている事に気付いて欲しいんだよ。

ダメなのかな？

僕では君に好きと言ってもらえないのかな.....。

暗闇

気付いてくれないのなら
それも僕の運命なんだろうね.....
あたたかな闇の中で笑えば
君の笑顔も見えなくなるよ。





君の声が聞きたくて
君に見てもらいたくて
僕は君の傍に居るのだと
そんな当然のことを認めて欲しかった。

夢？



彼女は僕と同じニオイがする。

闇に沈んだはずの僕に寄りそう女の子は

此処に居る僕を嫌わなかった.....

「好きじゃあないのならヒトガタとして傍に置くのは何故だと思う？」

ただただ愛らしいだけのヒトガタなど要らないと

何かを囁きかけてくるような人形が良いのだと

そんな声が聞こえた気がして.....

苦手

確かに.....確かに仲良くしても良いと言ったけど
コイツの赤い瞳が挑戦的なのは何故なんだろう？
僕の甘えを許さないかのように
火儼は女みたいな顔をしながら
男のように挑発してくる。
仲直りのしるしだと結ばれた手首は
不思議と痛みより、あたたかさを感じた。





ねえ

僕を見てくれていたこと

僕は気付かなかったんだ。

それが僕の弱さでも、甘えでも

きっと君は見放さずにいてくれるでしょう？

君を見つめ続ける僕の視線から

君は逃げずに微笑んでくれるよね？



僕は生まれて間がなくて
この世界に疎くて
君の気持ちを理解できない事も多いと思うんだ。
だけど僕は君が大好きで
そう、僕は君が大好きなんだから
だから傍に居て欲しいんだ。
ずっと、ずっと、僕の傍で笑っていて欲しい。
その笑顔が僕に向けられたものでなくても
もう僕は寂しがったりしないんだよ。

きっと君との出会いは

僕が「人形」だからこそありえたことなのだから

僕は何も言わずに君を見つめ続けよう。

いつか.....

僕を一番好きと言わせてみせるから！

撮影対象となった人形の紹介



撮影の対象となった人形

P.アリアーヌ様、造形制作

身長：約40cm

少年： ノーマル肌

研磨、組み立て、塗装： 猫屋雑猫

少女： 美白肌 「M.J.」と名付けてある。

塗装： 猫屋雑猫

「火雛」

現在、生産されていないボディとヘッドを持つ国産キャスト人形

塗装： 猫屋雑猫

ヒトガタ画像・少年

<http://p.booklog.jp/book/35021>

著者：猫屋雑猫

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nekoyazathuneko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35021>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35021>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.